

「観光の研究と実務に役立つ 図書館」を目指して

新しい「旅の図書館」のご案内

公益財団法人日本交通公社 観光文化情報センター長／旅の図書館長

久保田 美穂子

1

コンセプトは 「観光の研究と実務に 役立つ図書館」

「旅の図書館」の新しいコンセプトは、「観光の研究と実務に役立つ図書館」です。観光を研究している方・学んでいる方、観光政策の立案、観光産業や観光地の経営や実務に携わっている方、あるいは広く観光に関する動向や歴史に興味をお持ちの方にご利用いただけたらと考えています。

収蔵方針を一部変更し、学術的実践的な専門性の強化を図ることとしたため、全ての蔵書の見直しを行い

ました。また新たに、今回の移転に伴い当財団の調査研究部門が収集してきた統計や公開可能な調査研究報告書なども蔵書として集約し、蔵書規模は約6万冊となりました。

さまざまな文献から、研究の種類を、多くの参考事例から観光政策や観光地づくりの現場に活かすヒントを探すために、足を運んでいただけたらと思います。

なお、このたびのリニューアルは、運営主体である公益財団法人日本交通公社の長期経営計画に基づき、組織を挙げて取り組んできたもので、コンセプト設定の背景などは後述します。

独自の図書分類と 専門性・希少性の高い 蔵書の公開

今回のリニューアルにあたっては、専門性、希少性の高い蔵書の公開についての工夫を行いました。その一つは、観光研究図書に関する独自分類の導入です。

一般的な公共図書館や大学図書館は通常、広範な分野の資料を取り扱いますので、一般的な分類方法として日本十進分類法（NDC）というものを使っていますが、当館のように特定分野に集中して図書を収蔵している専門図書館においては、収

「旅の図書館」は、2015年（平成27年）10月1日から約1年間の閉館期間を経て2016年（平成28年）10月3日、東京駅八重洲口から港区南青山へと場所を移してリニューアル開館しました。

本年7月に落成しました南青山の「日本交通公社ビル」内に開館し、当財団の調査研究部門とともに、これまで以上に専門性を高めて新たな機能の発揮に取り組みます。

本特集は移転後最初の発刊になりますことから、「旅の図書館リニューアル開館記念号」としました。

特集1では、このたびの移転・リニューアルに込めた想いと新しい「旅の図書館」の特徴をまとめ、併せて具体的な利用方についてご案内します。

【これまでの旅の図書館】

「旅の図書館」は、1978年（昭和53年）、「テーマのある旅を応援する図書館」として財団法人日本交通公社が、八重洲第一鉄鋼ビル1階に開設したものです。開館当時の名称は「観光文化資料館」で、当時から「旅の図書館」という愛称も使われていましたが、1999年、正式に「旅の図書館」へと改称しました。

開設の理念としては、当時の当財団西尾壽男会長が「観光はそれ自身が文化であり、その観光文化を向上させたい」という言葉を残しています。また開設時のパンフレットのキャッチコピーは「大きな旅、豊かな旅へ」「旅立ち前の“旅立ち”」でした。

世界各国から集めた図書・地図・資料約1万点、新聞・雑誌を約70種類集めて無料で公開し、その後、旅行の下調べに必要な図書をという要望に応じて、日本各地、世界各国の旅行ガイドブック、時刻表、旅行関連雑誌、紀行文など、旅行に役立つ資料を充実させました。蔵書数は約3万5千冊規模（雑誌を除く公開

図書のみ）となり、多い年には年間3万7千人の皆様にご利用いただくようになりました（1995年）。

2002年（平成14年）には専門図書館協議会へ加盟し、図書館に求められる専門性などについて模索しながら、「旅の図書館講座」など、図書館を会場とするセミナーや講座の開催、蔵書の中からテーマを決めての特別展示などにも取り組みました。

2012年以降、より学術的な専門性を高めようと、観光研究の専門書や学術書の収集に力を入れ、貴重な資料のデジタル化や古書・稀観書の閲覧の開始、学術ジャーナルの購読・公開などを開始し、2014年（平成26年）からは、閉館後の図書館を利用して、「たびとしょCafe」という少人数でゲストを囲み、双方向の情報・意見交換のできるミニ研究会を主催してきました。

2015年（平成27年）10月以降、移転のため休館し、2016年10月、南青山でリニューアルオープンしました。

表 旅の図書館の歩み

年	主なできごと
1978年	「観光文化資料館」を開設（東京駅八重洲北口、第一鉄鋼ビル1F）
1979年	来館者数が1万人
1980年	開設2周年記念「第1回文化講演会」講師：井上靖氏「シルクロードの旅から」
1982年	開設3周年記念「第2回文化講演会」講師：松本清張氏「古代史の旅」
1984年	来館者数が10万人を突破
1996年	第一鉄鋼ビル1Fから第二鉄鋼ビル地下1Fへ
1997年	来館者数が50万人を突破
1999年	名称を「旅の図書館」へ改称
2000年	蔵書を広く公開することを目的に増床
2001年	ホームページリニューアルに合わせてインターネット蔵書検索システムを導入
2003年	観光文化セミナーを開催（2011年まで全13回）
2006年	旅の図書館講座を開講（2011年まで全10回）
2008年	開設30周年記念講演会 講師：旅行作家 山口由美氏「だから世界の旅は面白い」、ドイツ文学者・エッセイスト 池内紀氏「旅する心」
2010年	来館者数が80万人を突破、館内での特別展示を開始
2012年	第二鉄鋼ビル地下1Fから八重洲ダイビル地下1Fへ移転
2015年	移転準備のため一時閉館（10月～）
2016年	南青山の日本交通公社ビル内へ移転、リニューアル開館（10月）

資料：『創業1912年から1世紀 創発的進化へ向けて ～調査研究専門機関 50年の歴史～（公益財団法人日本交通公社50年史）』（2014年、公益財団法人日本交通公社）より筆者作成、更新

蔵資料のほとんどがその一つ分野に集約されてしまいます。

そこで、今回初めて独自の分類に取り組みました。

体系的な分類に適した十進分類法の長所を活かしつつ、観光分野に特化した収蔵資料の特徴に対応するため、このたび、観光研究資料（T分類）、財団コレクション資料（F分類）、基礎文献（NDC分類）の3つの分類方法を導入しました。これにより、管理運営面はもちろんです。ご利用の皆様にとっても目的の図書・資料がよりわかりやすくお探しいただけるようになりました。分類の詳細については特集2をご参照ください。

またこのたびのリニューアルに伴い、主に明治、大正、昭和初期に発行された貴重な資料（古書・稀覯書）の公開性を高めました。当館では、外国の観光政策を日本語に訳した戦前の本、明治期の日本国内の温泉や観光地の様子を記した文献、あるいは昭和初期の日本の観光魅力を英語で紹介したガイドブックなど、国内外の政府組織や旅行・観光産業

界が発行、活用してきた貴重な資料を所蔵しています。

これまでは保管スペースの事情等により予約限定で閲覧いただいていたが、今回新たに書誌データを整理し、専用書架を設置して、来館時の公開性を高めました。

希少性の高い資料ですので閲覧には申請が必要ですが、当時のデザインや装丁などはぜひご覧いただきたいと考え、当館1F他館内での企画展示も行っています。

当財団および現在の株式会社ジェイティービーの原点でありますジャパン・ツーリスト・ビューローが発行していた雑誌「ツーリスト」（1913年創刊）や、日本で最も長く続いた旅行雑誌「旅」（1924年創刊）についてはこれまでどおり、専用端末にてデジタルコレクションを閲覧いただけます。

知見やネットワークを共有する観光の研究・情報プラットフォーム

「日本交通公社ビル」には100

人規模のシンポジウムが開催可能な「ライブラリーホール」を設けました。

図書のある空間の魅力を活かし、書架に隣接したホールや会議室を使用して、「たびとしょCafe」（図書空間でつなぐ&楽しむ研究交流）を合言葉に、ゲストスピーカーと参加者が気軽に語り合える場として2014年度から主催）他各種研究会、シンポジウムなど、観光の研究や実務に携わる皆様が集まり交流できる機会を増やします。

図書館の運営にとどまらず、本年4月に発足した「観光文化情報センター」が中心となって、「旅の図書館」と当財団の調査研究部門がこれまでに得た知見やネットワークをより多くの皆様と共有し、さまざまな情報や人との出会いが生まれる場を創出していきたく考えています。

このように、これからの「旅の図書館」では、気軽に人が集まる場となることを大切にすため、静けさを重視するのではなく、ブックカフェのように自由で創造的な想像力を刺激される居心地の良さを目指し

た空間づくりを行いました。

また、スライディングウォール（移動壁）などを活用した柔軟な空間利用を行い、ライブラリーホールの一部であるライブラリー会議室Bエリアや1階のガーデンラウンジコーナーは通常、「旅の図書館」の閲覧スペースとしてご利用いただけるようにしました。

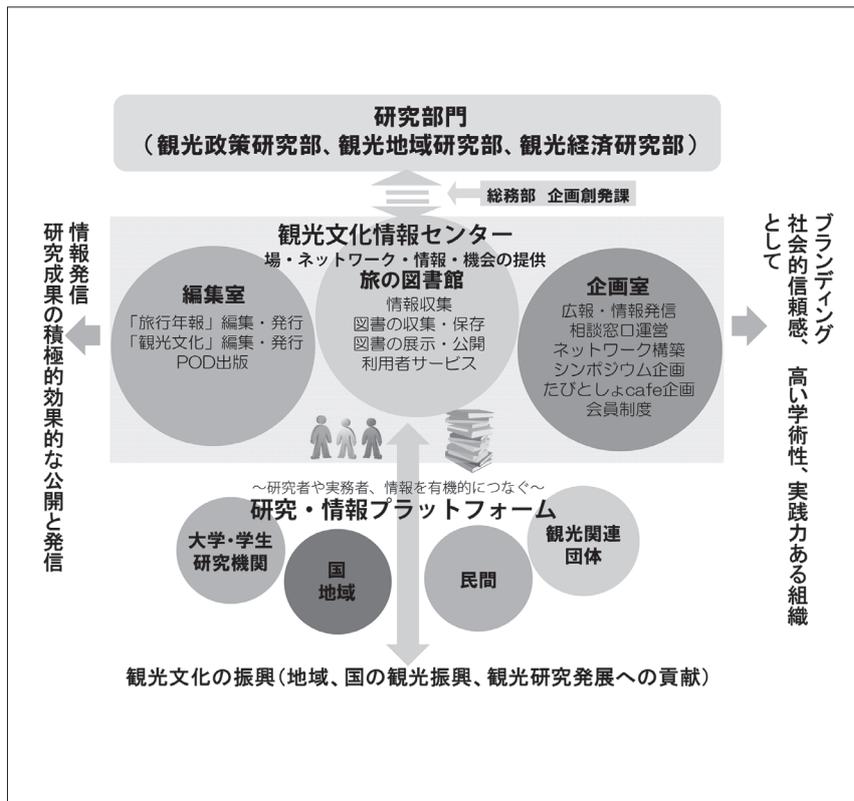
実践的学術研究機関の図書館として

このように今回の「旅の図書館」リニューアルは単なる移転ではなく、収蔵方針の変更とコンセプトの再設定を行い、さらには「図書館」としての運営にとどまらない新たな機能発揮をも志したものです。

その背景は次の通りです。
公益財団法人日本交通公社は、2012年（平成24年）の公益法人認定を機に10年後の組織の方向性や活動について、全職員が検討会議に参加し、2022年（平成34年）を目標とする「22ビジョン」という長期経営計画を策定しました。

国家的戦略として観光の重要性

図1 観光文化情報センターの役割



が増す中、当財団は、「観光分野における実践的な学術研究機関」として、国や地域の諸課題に対する解決力を発揮できる組織となることを目標として掲げ、この4年間、取り組みを進めてきました。

調査研究部門は、この「22ビジョン

ン」に基づき、学術論文の執筆や国際的な学会への発表機会を増やし、本年4月、文部科学省より「学術研究機関」の指定を受けています。「旅の図書館」もまた同ビジョンに沿い、実践的学術研究機関の一翼を担う専門図書館としての取り組み

を進めてきた次第です。

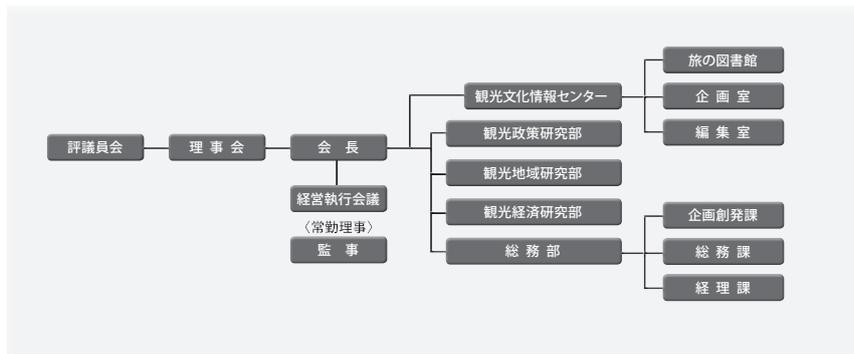
【観光文化情報センターの発足】

組織としては本年4月、「観光文化情報センター」という部門を発足させました。「観光文化情報センター」は、「旅の図書館」を中心として「編集室」と「企画室」からなり、図書館運営に加えて、調査研究部門と連携し、ホームページや出版物を通じた情報発信とネットワーク構築を担っています。

「旅の図書館」の再開をきっかけとして、「図書空間のある日本交通公社ビル」を活かし、観光の研究や実務に携わる皆様が集まり交流できる機会を増やし、ハード・ソフトともに「観光の研究・情報に関するプラットフォーム」という役割を果たしていきたいと考えています。

以上のように、「旅の図書館」は今回のリニューアルにあたり、収蔵方針や運営に関する変更を行いました。しかし、「観光文化の振興に資する」という開設理念は変わりません。どうぞこれまで以上に「旅の図書

図2 公益財団法人日本交通公社組織図 (2016年4月1日現在)



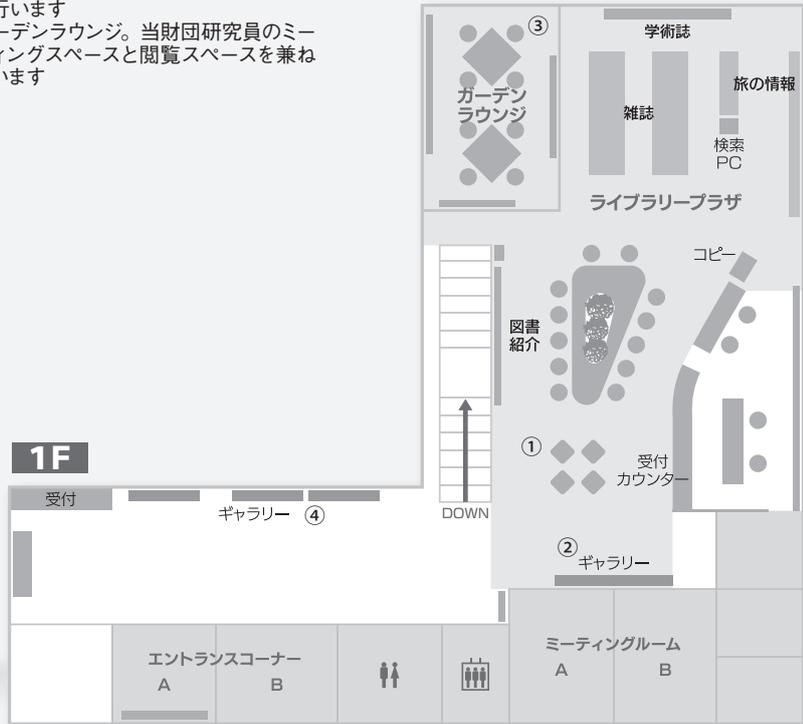
館」をご活用いただき、また、シンポジウムや研究会などへの参加を通じて、観光を取り巻く幅広い情報の読み解きや意見交換の場に、ぜひとも積極的にご参加ください。

(くぼた みほこ)

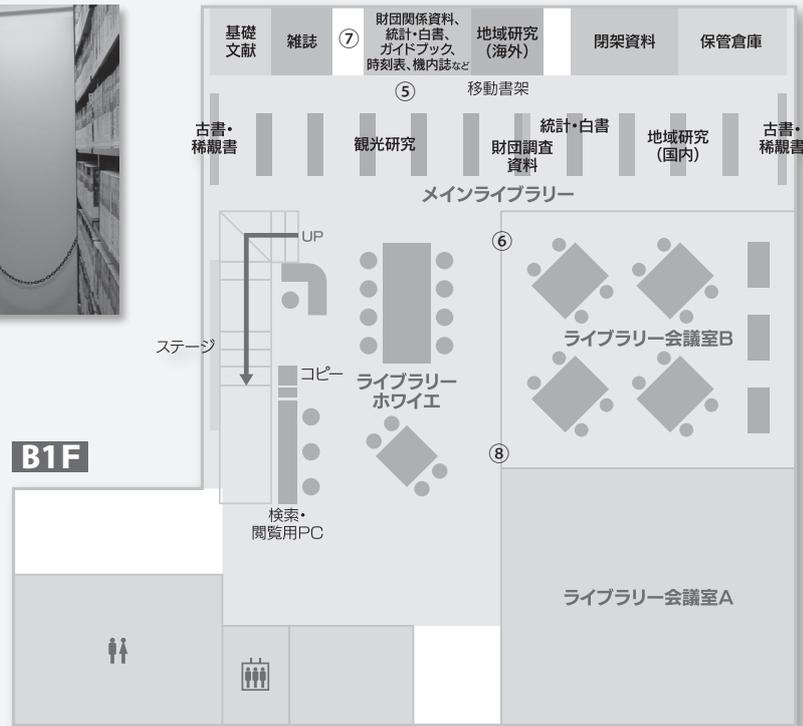


- ① 開放的な空間のライブラirieプラザ。雑誌架を中心に旅の情報コーナーなど新しい情報が豊富
- ② 古書・稀観書は1Fを中心に企画展示を行います
- ③ ガーデンラウンジ。当財団研究員のミーティングスペースと閲覧スペースを兼ねています

④ エントランスゾーンには、ギャラリーを設け、当財団の自主研究を中心に企画展を実施します(写真は「観光資源の評価に関する研究(展示期間:2016/10/3~12/30)」)



- ⑤ 独自分類によるメインライブラリーの書架
- ⑥ ライブラirie会議室B。通常は閲覧にご利用いただけます
- ⑦ ガイドブックや時刻表のバックナンバーは移動書架へ収納。開架資料と閉架資料があります
- ⑧ ライブラirieホール全体では研究会などを開催します



「旅の図書館」ご利用案内

〈開館日・休館日など〉

- 開館時間：月曜日～金曜日／10:30～17:00
- 休館日：土曜日・日曜日・祝日・毎月第4水曜日・年未年始

※上記以外の臨時休館のお知らせはホームページをご覧ください。

※シンポジウムや各種会議開催などによる臨時休館、開館時間やご利用可能スペースが変更になる場合がございます。旅の図書館のホームページや館内にて最新の情報をご案内いたします。

●入館料：無料

〈ご利用方法〉

館内のご利用にあたっては、1F受付カウンターにてご利用の手続きをお願いします。

●1Fのみご利用の方

- ①受付カウンターで利用申請書にご記入ください。
- ②利用者証をお受け取りください。
- ③退館時に利用者証を受付カウンターにご返却ください。

●全館（1F、B1F）ご利用の方

- ①受付カウンターで利用申請書にご記入ください（運転免許証、学生証など、ご本人確認ができる身分証明書をご提示ください）。

- ②利用者証（セキュリティカード付）をお受け取りください。
- ③退館時に利用者証（セキュリティカード付）を受付カウンターにご返却ください。

※たびとしょカードについて

本館を繰り返しご利用いただく場合は「たびとしょカード」が便利です。カードをご提示いただくだけで毎回の利用申請書への記入が不要になります。

- ・カード発行手数料や年会費は無料です。
- ・カードの発行は受付カウンターで承ります。

〈フロアマップ〉（右ページ）

1Fでは、主に当財団の刊行物・出版物や学術誌、雑誌、ガイドブック、新着図書など、観光の新しい情報を提供しています。

B1Fには、観光研究・地域研究資料をはじめ、統計資料、古書・稀観書、ガイドブックや時刻表など主要な図書・資料を収

蔵しています。専用端末にて海外の観光関連学術誌（5誌）が閲覧できます。

B1Fのご利用は入室用のセキュリティカードが必要です。

B1Fのライブラリー会議室Bエリアは、通常は閲覧スペースとしてご利用いただけます。

〈資料の閲覧〉

- ・本の館外貸し出しは行っておりません。
- ・古書・稀観書の他、古い時刻表の一部、統計資料の一部は

閉架資料です。閲覧申請用紙にご記入の上、スタッフにお申し出ください（ホームページからの申請も可能です）。

〈お願い〉

- ・館内には、ふた付きの飲み物はお飲みいただけます（食事は不可）。
- ・写真撮影は原則禁止です。
- ・携帯電話のご利用については、マナーモードに設定の上、通話は1Fエントランス・ギャラリーエリア、B1Fエレベーター周辺でご利用ください。
- ・館内は禁煙です。
- ・1FとB1Fにコピー機がございます。著作権法に定められた範囲でご利用いただけます。料金は白黒20円、カラー50円です。
- ・パソコンはお持ち込みいただけます。



〈アクセス〉

〒107-0062 東京都港区南青山二丁目7番29号 日本交通公社ビル
東京メトロ銀座線、半蔵門線、都営大江戸線「青山一丁目」5番出口から徒歩3分
TEL: 03-5770-8380 Email: tabitosho_info@jtb.or.jp